

とかれて「本末究竟等」とのべられて候は是也。摩訶止観第五云、「行解既に勤めぬれば三障四魔紛

然として競い起る」文。又云、「猪の金山を措り、衆流の海に入り、薪の火を熾んにし、風の求羅を益

すが如きのみ」等云云。釈の心は、法華經を教のごとく機に叶ひ時に叶ひ行すれば、七の大事出来す。

其中に天子魔とて第六天の魔王、或は国主、或は父母、或は妻子、或は檀那、或は悪人等について、或

は随て法華經の行をさええ、或は違してさうべき事也。何れの經をも行ぜよ、仏法を行ずるには分分に随

て留難あるべし。其中に法華經を行ずるには強盛にさうべし。法華經ををしへの如く時機に當て行ずる

には殊に難あるべし。故に弘決八云、「若し衆生、生死を出でず、仏乘を慕わずと知れば、魔、是の

人に於て猶親の想を生ず」等云云。釈の心は、人善根を修すれども、念仏・真言・禪・律等の行をなし

て法華經を行ぜざれば、魔王親のおもひをなして、人間につきて其人をもてなし供養す。世間の人に実

の僧と思はせんが為也。例せば国主のたとむ僧をば諸人供養するが如し。されば国主等のかたきにする

は、既に正法を行ずるにてある也。釈迦如来の御ためには提婆達多こそ第一の善知識なれ。今の世間を

見るに、人をよくなすものはかたうどよりも強敵が人をばよくなしけるなり。眼前に見えたり。此鎌倉

の御一門の御繁昌は義盛と隠岐法皇ましまさずんば、争か日本の主となり給べき。されば此人々は此御

一門の御ためには第一のかたうどなり。日蓮が仏にならん第一のかたうどは景信、法師には良観・道隆

・道阿弥陀仏、平左衛門尉・守殿ましまさずんば、争か法華經の行者とはなるべきと悦。

かくてすごす程に、庭には雪つもりて人もかよはず。堂にはあらし風より外はをとづるゝものなし。眼